

厚田（北海道石狩市）の土門家土蔵で発見されたお札類について

Amulets found in the warehouse of Domon family
in Atsuta, Hokkaido, Japan

坂本 恵衣*

Kei SAKAMOTO*

キーワード：厚田，お札，神社，寺

はじめに

石狩市厚田区は、石狩市の北部に位置する。厚田は、近世から近代にかけて鯿等の漁場として栄え、江戸時代には松前藩によって、アツタ場所が開かれていた。1869（明治2）年に広域行政区画が置かれた際に、石狩国厚田郡となり、1902（明治35）年の二級町村制施行で厚田村となった。そして、平成17（2005）年に当時の石狩市、浜益村と合併し、現在の石狩市厚田区となる（石狩町編，1972；石狩町編，1985；谷内ほか，1969）。

厚田区厚田の土門家土蔵において、お札等14点が保管されていた。それらの内容は、海上安全、漁業繁栄等が多く、漁場として栄えた厚田の当時の信仰形態をある程度推測しうると考える。本稿ではこのお札等の資料について、その解説と若干の考察を加える。

1. 土門家

土門家の初代惣太郎（1850-1924）は最初厚田村（現厚田区厚田）に入り、結婚して安瀬で漁師をしていた。その後、土門家は厚田本村に移り、惣太郎の娘モト（1906-1962）の元に浜益から婿入りした録造（生年不明-1937）が1929年頃に安瀬の佐藤氏から建物を購入・改修し^①土門商店（荒物、雑貨、米、酒）を始めた。第二次世界大

戦中に商品が手に入らなくなると旅館（名称不明）も営んだ。現在の土門家土蔵の所有者である土門隆一（1932年生まれ）に代替わりした後、1950年代に廃業した。

2. 資料紹介

今回の調査では木札7点、紙札6点、短刀1点の全14点の資料が見つかった。表1に実測結果をまとめた。大きさ及び記載事項については判明したものを記した。

3. 寺社について

お札等の記載事項から、由来する寺社等を調査し表2にまとめた。記載事項を元に寺社名、所在地、祭神及び本尊等について判明したものを記載し、不明の項目については空欄とした。

4. 考察

今回、土門家の土蔵で発見されたお札類の調査を通して判明したのは以下の通りである。

まず地理的側面からであるが、由来となる寺社等が記載されているものを地図上に配置した（図1）。なお、同一名称の寺社が複数あり、特定ができないものについては総本山を記載した。まず

*北海道教育大学大学院教育学研究科 〒002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目1

表1. 資料一覧.

番号	実測 (cm)	記載事項	備考
1	縦：35.7 横：9.2 厚さ：0.9	表：徳山大神宮御神璽 石狩國厚田群厚田村鯉場海産満足 佐々木源蔵 拜 裏：明治十四年二月十六日	木札 写真1,2
2	縦：44.8 横：10.3 厚さ：0.7	表：□奉修不動尊護摩供漁業洪福人民和親祈攸 海渡山 阿吽寺 裏：明治十四年一月廿八日	木札
3	縦：39.2 横：9.3 厚さ：0.7	表：(梵字) 海上安全 大漁円満 裏：(梵字)	木札 写真3,4
4	縦：35.9 横：9.3 厚さ：0.5	表：□奉修大聖不動明王護摩供鯉大漁円祈攸 不食祈者 水野□心海	木札
5	縦：31.2 横：7.3 厚さ：0.7	表：出雲教大神漁業繁栄守護	木札
6	縦：30.4 横：7.4 厚さ：0.7	表：官弊月山神社三山御前太麻海上安祈大漁満足家内安祈 国弊社出羽神社 羽黒山 国弊湯殿山神社 神司	木札
7	縦：29.0 横：8.1 厚さ：1.1	表：国弊中社鹽竈神社祈禱神璽	木札
8	縦：27.2 横：6.8 厚さ：0.4	表：天照皇大神宮	紙札 写真5
9	縦：27.3 横：0.7 厚さ：0.3	表：天照皇大神宮	紙札
10	縦：27.4 横：6.7 厚さ：0.3	表：天照皇大神宮	紙札
11	縦：20.7 横：7.3 厚さ：0.1	表：金毘羅大龍王守護 鯉□豊漁 石狩 家門繁昌 法性寺	紙札
12	縦：27.0 横：6.7 厚さ：0.1	表：厚田神社神璽	紙札
13	縦：26.9 横：6.7 厚さ：0.1	表：八幡神社神璽	紙札
14	全長：40.3 柄：10.5 刀身：24.1 鞘：29.6	なし	短刀 写真6

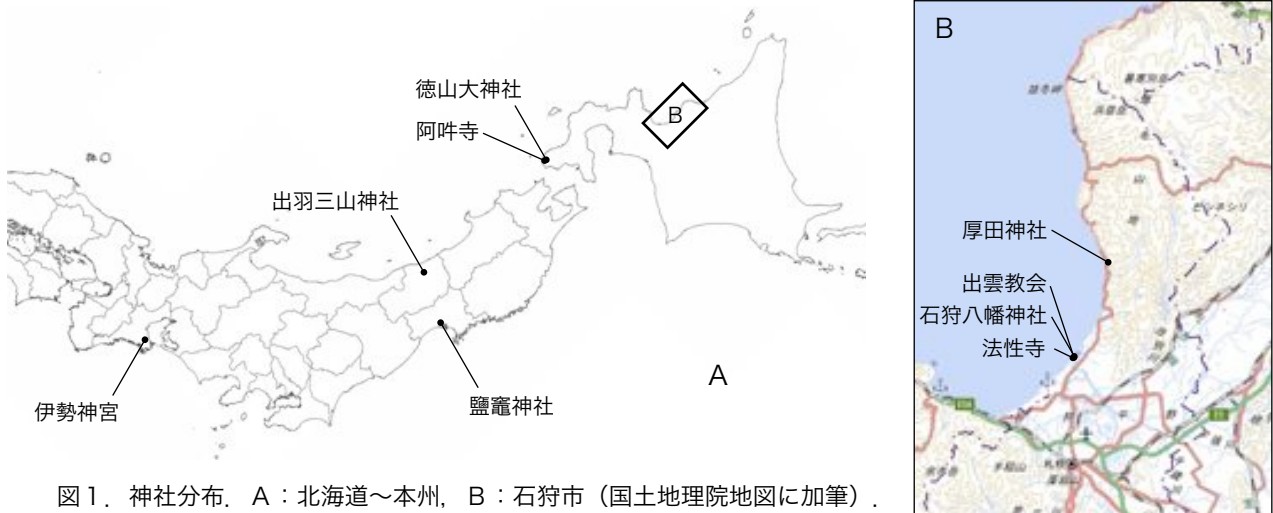


図1. 神社分布. A：北海道～本州, B：石狩市（国土地理院地図に加筆）.

表2. 寺社一覧.

名称・宗派	所在地	祭神・本尊	備考	表1との対応
徳山大神宮	松前郡松前町字神明 66番地	天照大御神, 豊受大神 他47柱		1 徳山大神宮
真言宗 古義派 海渡山 阿吽寺	松前町字松城371	不動明王		2 阿吽寺
不明				3
不明				4
不明			石狩市内に出雲教会とい う祠があるが, この札と の関係は不明である.	5 出雲教
出羽三山神社	山形県鶴岡市羽黒町 手向字手向7	月読命, 奇稲田姫神	現在は北海道にも分社が 存在する.	6 出羽三山神社
鹽竈神社	宮城県塩竈市一森山1-1	塩土老翁神, 武甕槌神, 経津主神	現在は北海道にも分社が 存在する.	7 鹽竈神社
神宮 (伊勢神宮)	三重県伊勢市宇治館町1	天照大御神, 豊受大神他 123社の神宮が存在する.	天照皇大神宮を祀る神社 は現在北海道に多数存在 する.	8, 9, 10 天照皇大神宮
浄土宗 鎮西派 法性寺	北海道石狩市弁天町15	阿弥陀如来	総本山は京都の知恩院で ある.	11 法性寺
厚田神社	石狩市厚田区厚田1番地	保食神		12 厚田神社
八幡総本山 宇佐神宮	大分県宇佐市大字 南宇佐2859	誉田別尊, 多岐津姫命, 市杵嶋姫命, 多紀理姫命, 息長帯姫命	石狩八幡神社のお札であ るかは不明である.	13 八幡神社

出典（石狩町編, 1991；星野, 1894；北海道神社庁誌編集委員会編, 1999）より作成

現在の石狩市内に位置する寺社が4社存在する。これらは土門家が厚田村に居住していたことから、地元の寺社からお札を受けたと考えられる。松前の寺社2社からもお札を受けているが、これら2体は裏面に「明治十四年二月十六日」「明治十四年一月廿八日」と年代の記載があり、明治期に手に入れたものであることがわかるが、その入手経緯は不明である。また、本州に位置する3社の神社に関しては、寺社の特定はできていないが、お札の記載から推測し、総本山を記載した。残り2体のお札と短刀に関しては、どこに由来するものなのかはわかっていないため、今後引き続きの調査が必要である。

次にお札の記載事項に着目する。全13体のお札の内、「鯨漁」「大漁」「海上」といった記載があるものが7体。直接「漁」等の記載はない場合で、神社の祭神によって推測できるものが2体ある。鹽竈12神社の祭神は航海安全に関わり、厚田神社では海上安全に関わる神事が行われている。これらのことから、今回見つかったお札の半数以上が漁に関係するものであることがわかる。厚田村が鯨漁で栄えた場所であるということや、土門惣一郎が漁師をしていたことなど、土門家が漁業に関係があったことから、これらのお札を大漁祈願、海上安全を祈願して受けるに至ったと推測できる。

一方で、短刀にはその由来となる部分を見つけることができなかつた。ご神体であるとも考えられるが、柄の文様や鞘からも銘を発見できず特定することはできなかつたため、今後その由来を特定する必要があると考えられる。

これらの資料は、厚田の人々が当時、どのような信仰を持っていたのかを知ることができる貴重な資料である。今後は、お札や短刀の由来となる寺社を特定するとともに入手経路を調べることで、厚田という漁村における信仰のあり方について、より詳しく解明していきたい。

謝辞：本稿の執筆に伴い、土門家の皆様には資料提供等たくさんのご協力を賜りました。

また、いしかり砂丘の風資料館の工藤義衛氏には、資料の調査や本稿の構成等についてご教示を頂きました。そして指導教官である百瀬響教授には構想から執筆に至るまで丁寧なご指導をいただきました。末筆ではありますが、お世話になった皆様に心より御礼申し上げます。

引用文献

- 北海道神社庁誌編集委員会編，1999．北海道神社庁誌．北海道神社庁．
- 星野和太郎，1894．北海道寺院沿革誌．秀英社．
- 石狩町編，1972．石狩町誌 上巻．石狩町．
- 石狩町編，1985．石狩町誌 中巻一．石狩町．
- 石狩市編，1997．石狩町誌 下巻．石狩市．
- 谷内鴻・藤村久和・鈴木藤吉・木滑二郎編，1969．厚田村史．厚田村．



写真1. 徳山大神宮札表面.



写真2. 徳山大神宮札裏面.



写真3. 梵字札表面.



写真4. 梵字札裏面.



写真5. 天照皇大神宮札表面.



写真6. 短刀.

